

令和8年
2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1 先負 み	2 仏滅 うま	3 大安 ひつじ	4 赤口 さる
5 先勝 清明 とり	6 友引 いぬ	7 先負 る	8 仏滅 一粒万倍日 ね	9 大安 うし	10 赤口 とら	11 先勝 一粒万倍日 う
12 友引 たつ	13 先負 み	14 仏滅 三りんぼう うま	15 大安 ひつじ	16 赤口 さる	17 先負 土用 とり	18 仏滅 いぬ
19 大安 る	20 赤口 穀雨 一粒万倍日 ね	21 先勝 うし	22 友引 とら	23 先負 一粒万倍日 う	24 仏滅 たつ	25 大安 み
26 赤口 三りんぼう うま	27 先勝 ひつじ	28 友引 さる	29 赤口 ● 昭和三 昭和祭 とり	30 仏滅 いぬ		

卯月

〔うづき〕 令和8年4月

卯の花が随所で咲き乱れるので、卯月または卯の花月と言いました。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

朝夕の食事は、うまからずとも、
褒めて食ふべし

伊達政宗壁書

今月のことば

朝夕の食事は、うまからずとも、
褒めて食ふべし

伊達政宗壁書

「食事は黙って食ふべし」とも教へられてゐる。しかし、今日の如く、子供が在学中などの時にあつては、せめて朝晩のときの食事ぐらゐは気持よく話合ふことも大切である。

伊達政宗のやうな大名であつても、食事を用意してくれた者たちの陰の苦勞を思ひ、それにねぎらひの言葉をかけることが大切だといふ。

一家の平和といふものは、上下の区別がない。女房に向つても「ご苦勞さん、うまかつたよ」といふ一言のかけられる人は、すべての事に行き届いた人になれるであらう。

壁書とは家訓と同じである。

(続神道百言 財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまじり

入学 決意も新たに「氏神さま参り」

入学や就職、新学年、会社の年度始めなど生活環境が変わる時も、人生の大きな節目といえます。新しい何かが始まる躍動の月の始めに、氏神さまにお参りをし、今後のさらなる御加護をいただき、無事に過ごせるようお願いいたします。



十三参 四月十三日 大人への入り口に知恵や福を

数え年で十三歳になった男女が、福徳と知恵が授かるようにお参りするならわしで、「知恵もうで」とか「知恵もらい」とも言われています。参拝の帰り道に後ろをふり向くと、授かった知恵を落とすという言い伝えもあります。十三参りは、もともと女の子のお祝いとして二百年ほど前に始まりましたが、十三歳という年齢は、男女共に肉体的にも精神的にも大人への変換期にあたり、少し不安定な時期でもあるため、親子ともども心身の健康を願ひしませう。

関西地方ではさかんに「知恵や福を」

卯月八日について

四月八日は花祭り、お釈迦さまの誕生日だといつて甘茶をかける風習は広く行きたつています。しかし全国のこの日の習俗を見てみると、神祭りの日でもあることに気がつく。

関東の霊峰といわれる筑波山、赤城山、三峯山などの神社では、この日に例大祭が執り行われる。この日の筑波山神社の「御座替祭(おざかりさい)」や、静岡浅間神社の四月三日の「昇り祭(のぼりまつり)」のように、山の神が里に下られて田の神になるという信仰が全国的にある。また全国の神社の春祭りも、これとおおよそ趣きと同じくするものといつてよいとおられる。卯月八日は福島県の東南部では、この日を神の日だといつて田に神を祭るところがある。また「千早振る卯月八日は吉日よ神さげ虫の成敗ぞする」と紙に書いて虫よけのまじないをするところがある。鹿児島県、徳島県の一部では、この日に山に登って遊樂する風習がある。このほか、この日にウツギ・ツツジ・シャクナゲなどの花束を竹竿につけて庭先に立てる風習が全国的にある。これをタカハナ・テントウバナと呼ぶところから見ると、やはり春の農耕期に先立っての「日の神迎え」の信仰が表れているものと考えられる。さらにこの日をソリといつている地方(鹿児島県の一部)があるのは、これまた神迎えの日であることを示している。ソリはサオリで、サオリのサは神のことを指す。このように本格的な春の農耕作業を開始するにあたっての神祭りの風習がこれほどはつきりしていることは、卯月八日が、実は日本列島全体の春祭りの時期であることを物語るものといつてよい。

いちごんほうおん 一言芳思 ちよつとした声をかけてもらったこと。またその恩に感謝して人々と仰ぐこと。



芝桜(しばさくら)

参考文献 『くらしと祭り百話』小野迪夫(神社新報社)

二十四節気

【清明 せいめい】…五日

旧暦三月辰の月の正節で、このころになると、春気玲瓏として草木の花が咲き初め、万物に晴朗の気があふれてくるという意味です。

【穀雨 こくう】…二十日

旧暦三月辰の月の中気、このころは春雨がはびるようになり、田畑をうるおしてその成長を助け、種まきの好期をもたらします。春の季節の最後の節気です。

六曜・選日

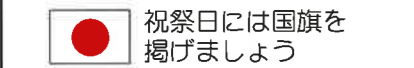
【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患えは長びくおそれあり
【大安】…何事をするにも吉の日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
《選日の吉凶》
【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始、婚姻は吉、借りの、離別は凶

七十二候《4月》

- 穀雨**
 - 初候・穀始生(あしはじめてしやうす)
 - 次候・葦が芽を吹き始める
 - 末候・霜が収まり苗代の稲が育つ
- 清明**
 - 初候・玄鳥至(げんちよついたる)
 - 次候・ツバメが南から飛来する
 - 末候・ガンガ北へ渡去する

いぬめ 安産祈願 4月の戌の日
6日(月)・18日(土)
30日(木)
*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしてあります。神社にお問い合わせください。

《29日 昭和の日》
激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いを致す日です。
祝祭日には国旗を掲げましょう



「鎮守の杜」

〜日の大神の恵みを得て〜

植物は、水と太陽のエネルギーを利用して光合成によって酸素と炭水化物を作り出します。地上の生物はこの恩恵なしでは生きていけません。そしてたくさんの植物が育っている森は、雨水を蓄え、蓄えられた水は森の養分を十分に吸収し川から海へと流れ込み、海藻が茂り魚たちの生きる場が創られています。まさに森は、天と地を結び太陽と水によって命を育む源です。私たちの祖先は、そのことを体験の中から学び、自然を神と崇めてきました。昔から神社の杜は「鎮守の杜」といわれ、神聖なものとして大切に保護されてきました。境内は神々が宿り鎮まる杜であり、いろいろな意味で私たちに恵みを与えてくれる森なのです。自然の中に神々を感じる心を絶やすことなく「森」を守り、家族そろって「杜」へ参拝してみましょ。